

# Jera

エネルギーを新しい時代へ

## 2025年度下期 定例会見説明資料

2026年2月18日  
株式会社JERA



# 目次

## はじめに:

世界的な電力需要増加の中、脱炭素化の流れは止まっていない ————— 2

## 第Ⅰ部:脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

---

1.初の日本向け低炭素アンモニアバリューチェーン構築が進捗 ————— 4

2.黎明期の国内洋上風力事業を前進させ、社会に定着させる ————— 5

3.脱炭素価値を創出し、GXが定着する社会へ ————— 6

4.脱炭素価値で地域に根ざした事業を高付加価値化 ————— 7

5.脱炭素の価値に共感できる場を創出 ————— 8

## 第Ⅱ部:重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

---

6.重要性が高まる火力発電を最大限活用するために（全体像） ————— 10

7.蓄電池の導入により、火力発電機の負荷を軽減 ————— 11

8.補修部品を戦略的に確保し、計画外停止時も迅速に修復 ————— 12

9.安定性と柔軟性を高めたLNGポートフォリオの強靱化 ————— 13

はじめに

# 世界的な電力需要増加の中、脱炭素化の流れは止まっていない

- 世界は脱炭素の歩みを止めていない。
- 各国は、地域特性に応じて強みを活かせる脱炭素エネルギーの開発を着実に進めている。
- AIなど、デジタル・データ向け需要の拡大で電力・エネルギー逼迫が世界的に進展。
- 当社は、LNG・再エネ・水素/アンモニアの3つの戦略的事業領域の手を緩めず、経済安全保障にも寄与しながらソリューションを提供し続ける。

## 止まらない「脱炭素」の潮流

### 脱炭素

米国：原子力、低炭素燃料開発を進め、輸出アクセル  
中国：グリーン産業を育成

### 電力逼迫

AI普及によるデータセンター向け電力需要の急増

### 世界情勢

経済安全保障の重要度増

## JERAの戦略的事業領域の重要性の高まり



世界に取り残されぬよう、脱炭素化を着実に進め、足元の電力需要にも確実に応えていく

# 第 I 部： 脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

**Jera**

Energy for a New Era

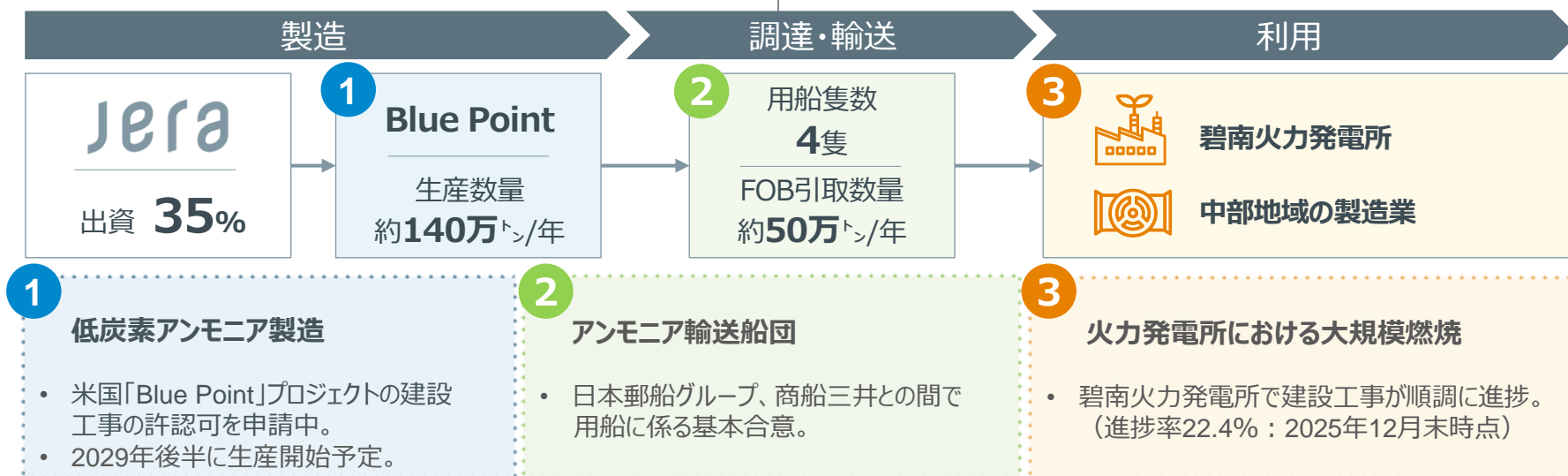
脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

# 1. 初の日本向け低炭素アンモニアバリューチェーン構築が進捗

- 価格差に着目した支援制度の認定を受け、2029年度完成予定のアンモニアバリューチェーン構築が前進。
- 製造、調達・輸送、利用の各分野の取り組みも加速。

- 碧南火力発電所を起点に、脱炭素を目指す全てのお客さまに対し、アンモニアを活用した最適かつ最先端で効果的なソリューションを提供。

## <低炭素アンモニアバリューチェーン>



Blue Point 完成予想図（提供：CF Industries社）



（提供：日本郵船株式会社）



（提供：株式会社商船三井）

アンモニア輸送船のイメージ画像



碧南火力発電所商用アンモニアタンク建設工事  
（2026年1月5日時点）

脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

## 2. 黎明期の国内洋上風力事業を前進させ、社会に定着させる

- ・ 2025年8月、JERA Nexとbpの洋上風力発電事業を統合。
- ・ 開発中案件を含む持分容量1,300万kW規模のスケールメリットと、規律あるポートフォリオ管理を通じてプロジェクトを推進するグローバルな規模の洋上風力会社「JERA Nex bp」を発足。

- ・ 厳しい事業環境ではあるが、国内洋上風力事業がマーケットで自立できる環境づくりを進める。
- ・ まずは、国内の2つの洋上風力プロジェクトの完遂に向けて、株主としてJERA Nex bpをサポート。

### 第2 ラウンド

男鹿市・潟上市・秋田市沖洋上風力発電事業  
(31.5万kW) 2028年6月運転開始予定

#### 主な進捗

- ・ 陸上送変電工事、基地港整備工事を実施中
- ・ 国産CTVの長期定期傭船契約、風車基礎工事契約、基地港整備工事契約など締結
- ・ 秋田県、男鹿市、潟上市との立地協定を締結
- ・ 第3次保証金の納付



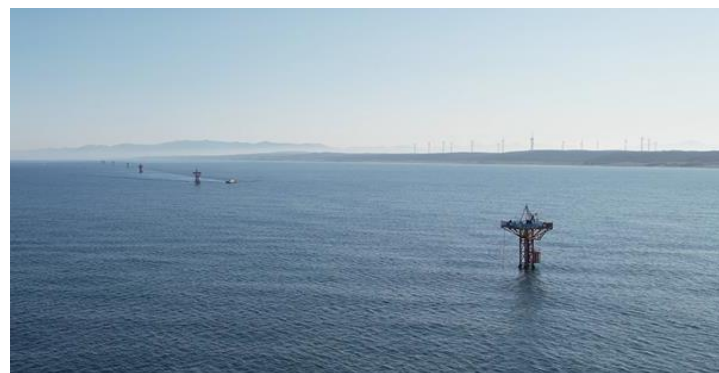
基地港（秋田港）整備

### 第3 ラウンド

青森県沖日本海（南側）洋上風力発電事業  
(61.5万kW) 2030年6月運転開始予定

#### 主な進捗

- ・ 2025年8月に海底地盤調査を完了
- ・ 事業者認定後、初の法定協議会への参加
- ・ 公募占用計画の認定



青森県沖日本海（南側）の海底地盤調査



脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

### 3. 脱炭素価値を創出し、GXが定着する社会へ

- ・ 地域に根ざした事業に脱炭素を価値として付加し、高付加価値化。
- ・ さらに、脱炭素を価値としてより身近に感じてもらえる取り組みを進める。
- ・ そしてGXが定着する社会へ。

#### 地域に根ざした事業を高付加価値化（7ページ）

##### 地域の強みの 価値化

地産再エネとDXで地方の魅力を価値化し、利益還元できる事業モデル

SMBCグループ、ヤンマーグループとの  
農林水産業の未来を創造する地域構想

##### 産業構造 高付加価値化

高品質とサプライチェーン全体のGXの  
価値で域内産業全体を高付加価値化

四日市コンビナートのカーボンニュートラル  
化に向けた連携



価値に応じた価格がつけられる社会

#### 脱炭素という価値領域の拡大（8ページ）

##### 身近で受け入れ やすい脱炭素

スポーツなど身近な分野から、脱炭素  
への共感を形成

セ・リーグを通じ、球団・ファンと脱炭素の  
取り組みの共創を目指す

##### 社会課題からの 価値の発見

温暖化などの社会課題に向きあい、  
多様な視点で解決策に価値を見出す

SMBCなどの賛同企業と一般社団法人  
社会的価値共創フォーラムを設立

価値に共感できる社会

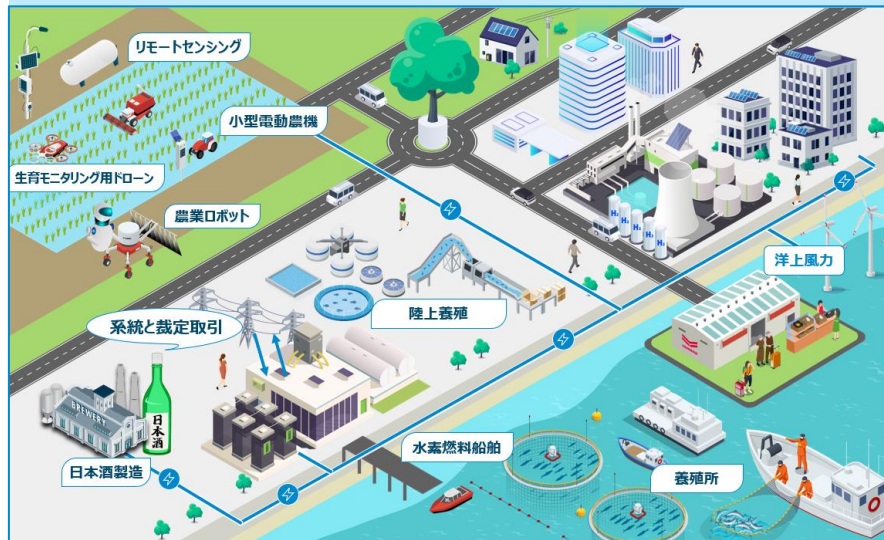
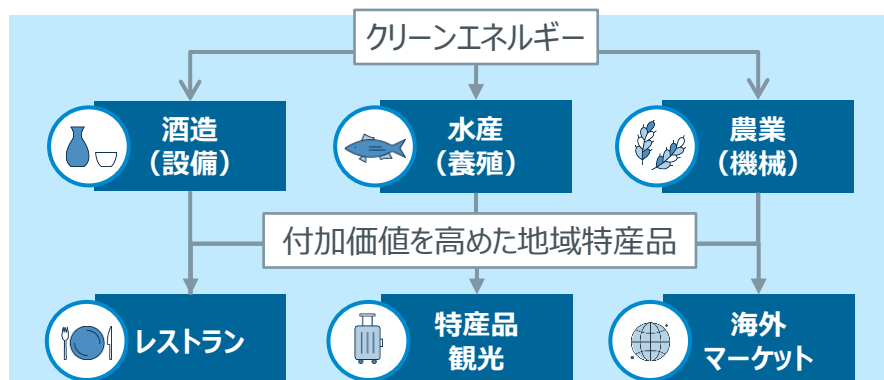
GXが定着する社会へ



脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

## 4. 脱炭素価値で地域に根ざした事業を高付加価値化

### クリーンエネルギーの地産地消を通じた 地域産業活性化モデル



地元、パートナー、自治体と連携して一連を事業モデル化

### クリーン燃料を使用した製品をつなぎ合わせた 「グリーン産業連関」

クリーン  
アンモニアの供給

→船舶用燃料へのアンモニア利用

エネルギー源・  
原料転換

→石油から水素やアンモニアへエネルギー源を転換

プロセス転換

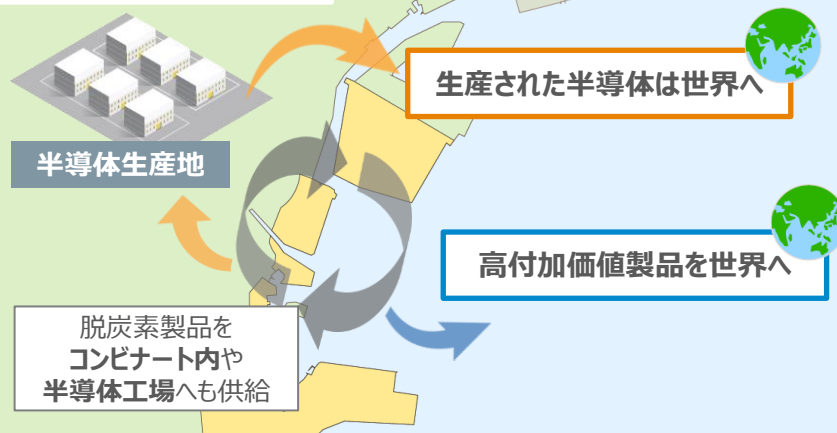
→生産プロセスに水素・アンモニアを導入し  
石油を削減

共同での  
価値転換

→コンビニートの共通インフラ

→高価格でも選ばれる製品をコンビニート企業と共創

### 高付加価値 産業連関エリア



高度に差別化された最終製品を提供



脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

## 5. 脱炭素の価値に共感できる場を創出

身近なスポーツの脱炭素を通じて  
脱炭素価値を身近なものへ

# Jera セ・リーグ

これまでの取り組み（～2025年シーズン）



シティクリーン(清掃活動)



次世代支援(環境エネルギー教室)

- 当社を中心に6球団がつながり、ファンと一体となって地域貢献や社会貢献につながる活動を展開

これから取り組み（2026年シーズン～）

球団・ファンとともに、  
脱炭素の取り組みの共創を目指す  
今年度中に、新たな共創に関する公表を予定

領域を越えて社会課題を議論し  
価値を創出する場の定着



社会的価値共創  
フォーラム



東大先端研  
Research Center for  
Advanced Science and Technology  
The University of Tokyo

SMBCなどの賛同企業と設立

### 〈円融の集い場〉

- 産官学に加え、芸術など多様な領域の人々が集い、地球温暖化など社会課題を議論
- 課題解決を社会的価値として追求する環境
- 高校生・大学生などの次世代も集め、社会課題認識のための視座を育成



# 第Ⅱ部： 重要かつ多面的な価値を持つ 火力発電事業の機能維持に向けて

**Jera**

Energy for a New Era

重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

## 6.重要性が高まる火力発電を最大限活用するために（全体像）

- データセンター向けなどの電力需要増と、再エネ拡大に伴うしわ取り（※）に対応できる電源として火力発電の重要性が増す。

（※）電力消費(需要)と供給を一致させる“同時同量”を維持するための発電量の調整

- 一方、火力発電機を酷使する中、資機材不足・価格高騰なども加わり、火力発電のおかれた環境が悪化。

- 火力発電機のリプレイスとともに、既存火力発電の健全性維持と、安定かつ柔軟なLNG確保に全力で取り組む。

### 火力発電に求められる役割

- ① 電力需要増加への対応
- ② しわ取りへの対応

### 環境変化

- ① エネルギー資機材・工事要員不足・価格高騰
- ② 起動停止回数の急増に伴う計画外停止の増加
- ③ 世界経済の分断



⋮

リプレイスの着実な実施（※2024年度上期・下期定例会見でご説明済）

+

### 既存火力発電の健全性維持 （11ページ・12ページ）

- ① 火力発電機が壊れないように
- ② 壊れた際にも迅速に修復

### 安定かつ柔軟なLNGの確保 （13ページ）

- ① 電力需要増加に備えた「量」の確保
- ② しわ取り対応への「柔軟性」の確保
- ③ 「緊急時」に備えたセキュリティの確保

重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

## 7. 蓄電池の導入により、火力発電機の負荷を軽減

- 季節や天候の影響を受けやすい再エネを補完するため、火力発電機の起動停止回数が想定以上に増え、不具合発生リスクが増加。

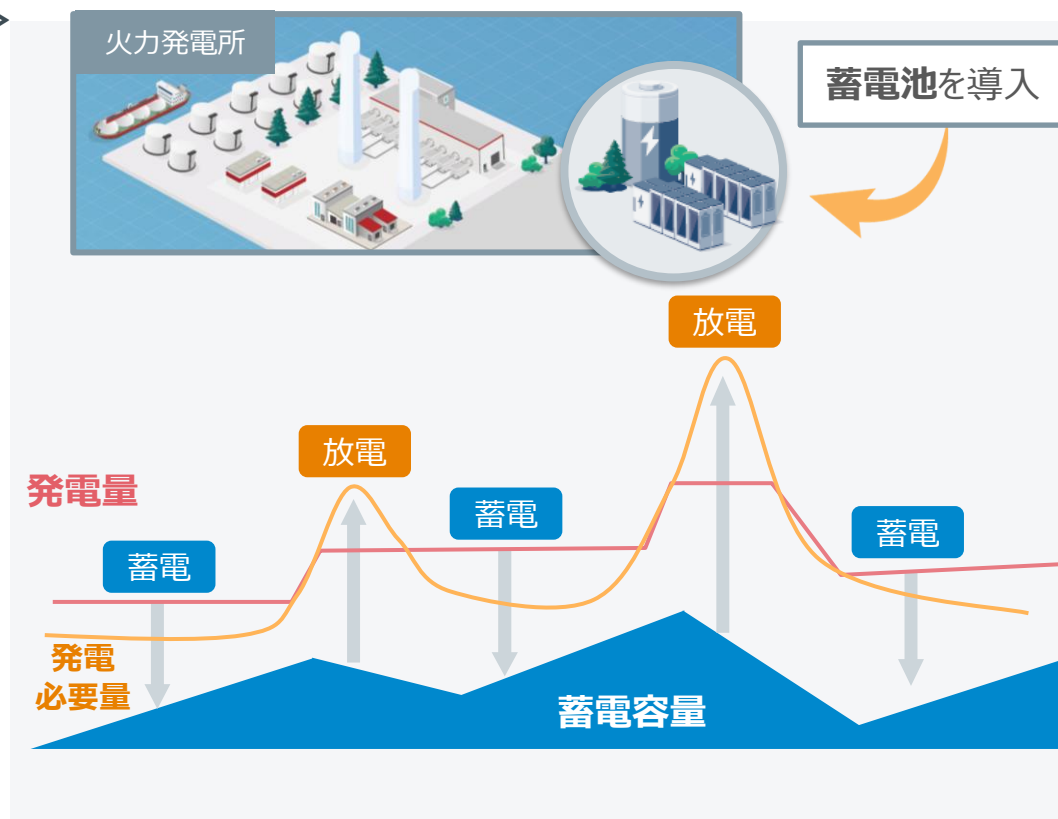
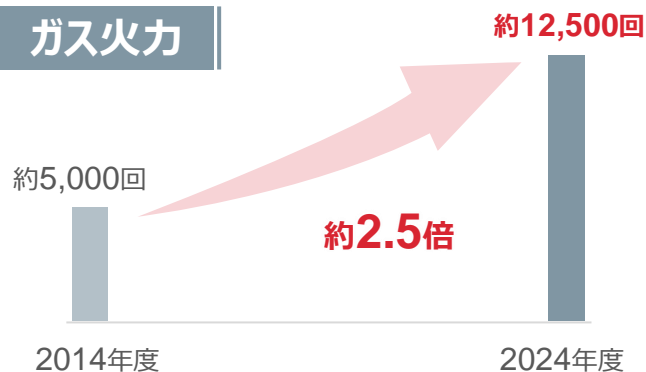
- 火力発電機と蓄電池を組み合わせ、火力発電機の起動停止回数の削減に向けた検討に着手。

### <当社国内火力発電所の起動停止回数（年間）>

#### 石炭火力



#### ガス火力



重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

## 8.補修部品を戦略的に確保し、計画外停止時も迅速に修復

- インフレ・人財難に加え、データセンターや再エネ設備の増加により、高圧ケーブルなどの設備部品の納期が長期化。

- 戦略的な在庫拡充、設備トラブル復旧期間の短縮化、操業の安定・安全化を推進。
- 資機材のプール運用に向け、グローバルベースでメーカーや発電事業者などとの連携を検討。

### マクロ経済環境

#### 資材価格・金利など大幅上昇

インフレ・円安

金利上昇

人財難

国内生産  
拠点縮小

### 事業環境

#### 納期の長期化（供給不足）

世界的な電源開発ブーム

データセンター・再生可能  
エネルギーの建設増加

#### 対策① 設備リスク評価の実施

- 設備不具合の発生頻度を踏まえ、資材毎に在庫量を積み増し
- DXを活用した監視を実施

#### 対策② 早期調達・適時調達の実現

- 電力系統に接続する変圧器・高圧ケーブルなどの段階的確保
- 長納期化する特殊資材材料を確保し、必要時に加工
- グローバルにメーカーや発電事業者などと連携

#### イメージ

#### 設備不具合発生





重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

## 9. 安定性と柔軟性を高めたLNGポートフォリオの強靱化

- 世界的な電力需要の増加が見込まれる中、同時に需要の不確実性・季節間格差が高まっている。変動する需要に確実に応じるためには、安定性と柔軟性を高めたLNGポートフォリオが不可欠。

- 歴史的に、高い供給安定性と信頼性を持つカタル産LNGと仕向地制約がなく柔軟性の高い米国産LNGを加えることで、LNGポートフォリオの安定性・柔軟性・地域多様性を強化。
- カタル産LNGは、需要急増時だけでなく、緊急時の調達先として、日本の経済安全保障への寄与も期待。

